第１学年　特別の教科道徳　授業案

１　主題名　　　　義務について考えよう　内容項目Ｃ-（10）公徳心

資料名　　　　「選手に選ばれて」　出典　新しい道徳１

２　本時の授業

（１）ねらい

登場人物のそれぞれの立場に立って話し合わせることで双方の思いをとらえ、集団の一員という自覚をもって、権利と義務について考えようとする心情を育てる。

（２）本時の流れ

27分

|  |  |
| --- | --- |
| 時間 | 学習の流れ　　　　　　　　　　　　　　　　　　　手だて・支援 |
| 5分  13分  5分 | ※Ａ君の思いを考えるきっかけを与えることで、物語中のA君の心情に着目しやすくする。  自分が選抜リレーの選手にクラスのみんなから選ばれたら、どう思いますか。「選手に選ばれて、」に続くように考えよう。  ・うれしい。　・プレッシャーだ。　・がんばろう。　・やりたくないな。  ※資料「選手に選ばれて」を読み聞かせる。  A君は、どのような気持ちで「出たくないから出ない。」と言ったのだろう。また、「選ばれた以上、クラスの代表として出場する義務がある。」というみんなの意見を、どう思いますか。  ※A君とみんなの双方の気持ちを考えさせることで、どちらの思いにも共感できるようにする。  ・クラスが勝つために、走ってほしい。（みんな）  ・断ると、みんなに迷惑がかかる。（みんな）  ・勝手に決められるのは嫌だ。（A君）  ・勉強しないと母に怒られる。（A君）  ※「本当に」と問い返すことで、A君の思い（権利）に寄り添いながら、集団の一員としてすべきことについて考えさせる。  本当にA君はリレーに出ないといけないのか。  〈出なければいけない〉（義務）  ・個人の意見を通すと、きりがない。  ・リレーで勝つためにも、クラスのためにA君には走ってほしい。  ・クラスの一員として、走るべき。  〈出なくてもよい〉（権利）  ・選挙だからって、A君の思いを無視して決めるのはよくない。  ・選手は、リレーに出たい人の中から選んで決め直せばいい。  ※どちらが正しい、といった話ではなく、「次に何を話し合うとよいのか。」と問い返し、今後どうしていくとよいのかを考えさせる。  ・練習時間を考えて、A君が参加できる形を考えるとよい。  ・選ばれる側の気持ちも考える必要がある。  ・みんなの思いを伝えて、A君にもう一度考えてもらう。  授業を通して、考えたことを振り返ろう。  ・義務だからと決めつけず、双方の思いを伝えたうえで、どうするのか考えるとよい。 |

３　評　価

登場人物のそれぞれの立場に立って話し合わせることで双方の思いをとらえ、集団の一員という自覚をもって、権利と義務について考えようとしていたか。（振り返りより）